

# 有明高専だより

第 43 号  
 有明工業高等専門学校  
 〒836・大牟田市東萩尾町150  
 TEL 0944 53 1011  
 印刷・西田印刷所

## 新入生を迎えて

### 第18回入学式

### 辞



本日ここに、本校第十八回入学式を挙行し、若く希望に燃える新入生一五六名を迎えることができ、併に在校生一同の最も慶びとするところであります。諸君は、福岡、熊本、佐賀などの各県から、高専生として厳しく選ばれた方々であり、諸君のこれまでの勉学と努力に対して、敬意を表すると共に、新入生および父兄の方々に、心からお祝いを申し上げます。ほんとうにおめでとうございませう。

#### 一、学校の歴史、育英の大本

本校は昭和三十八年に三学科の高専として創設され、四十三年に一学科の増設を得て、卒業生を十三回、合計一、五二九名を世に送り上げております。これらの卒業生は

機械、電気、工業化学、建築のそれぞれの分野で、有明高専の名を挙げ、高専卒業生の実力と信頼を高めるべく、現在、社会の中核の技術者として活躍していますが、あと五十年も経てば、指導的技術者が逐次現われて来るものと期待されております。教育の真の成果は二十年三十年以後に現われるものでありますから、高専教育という一つの使命に向って、教職員一同と学生一同相互が、「和」の精神をもって日常の教育に励むことが、まず大切と考える次第であります。

明治三十年旧制第五高等学校の開校記念式典における、当時教授であった夏目漱石の祝辞を私は部屋にかけておりましたが、その中に次のような一節があります。「子弟の相熟は育英の大本たり師の弟子を遇すること路人の如く弟子の師を視ること泰西の如くば、教育全く絶えて、国家の元氣沮喪せむ。」和熟とは茶道の「和歌」に通じると考えてよろしいかと思っております。

#### 二、高専教育の目的、望まれる人間像

さて、高専教育の目的は「深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成すること」と、学校教育法にありますが、一方「教育は人格の完成をめざし、平和的な国家及び社会の形成者として、自主的精神に充ちた、心身共に健康な国民の育成を期す。」と、教育基本法にあり、これらが教育の根底にあることを忘れてはなりません。したがって、本校では専門科目と共に、一般教育科目も学ぶことになり、余暇をつかって、文芸、美術、スポーツなどを楽しみ、これからの社会の求める人間像として、心の豊かな心にとりのある、視野の広い、高い識見をもった人に育つことを心掛け、さらに積極的、協同的かつ今後の工業技術に最も重要な創造性を持った技術者としての素質を養うことが必要であります。また、クラブ活動、寮生活などを過して、将来、社会人として必要な、社会生活の基本となる豊富な体験を身につけ、一生の友となる先輩、同僚、後輩を沢山つくってほしいと考える次第であります。

一九八〇年はエネルギー問題と

#### 三、学習態度と進路

これに関連する問題で、荒海の歳として明けましたが、社会のこのような荒海から隔離されて、学園はあたたかも平穏な港であり、この港に身を托して、新しい船出への出発の準備を、大学入試にわずらわされることなく、諸君は今から、五年間の一貫教育、少人数教育、実験実習の三点を特色とする高専教育にスタートするわけであり、緑の山野に囲まれた有明高専の自然環境は、他の高専、大学に見られない、若い心身の鍛錬に最適な地であります。専門の教育は、一歩一歩着実に修得できるように指導されますから、講義、演習、実験、実習と、クラブ活動、寮生活などの毎日の有意義な生活のリズム、一週間の生活のリズムを自らつくりあげること、まず努めていただきたい。五年後にはそれぞれの専門の基礎となる学芸と能力を身につけて、社会の各分野に巣立つことになり、さらに大学への編入あるいは技術科、学大学への進学の間も開かれております。諸君の未来は、洋々とて広がる海が待っているわけでありませう。

資源の乏しい日本では、特に工学の力が、現在までの、および将来の社会に大きな影響を持っています。その力が大きければ大きい

#### 四、社会の期待と使命感

ほとんどの工学に携わる人々には、人間の広い視野と高い識見が要求されます。そのように大きな期待が工業高専教育にもかかっていますから、その期待にこたえるための使命感を常に持ちつづけ、入学の時の燃える初心を忘れず、苦勞の多いほど、後の慶びも大きいことを銘記して、五年後揃って晴れの卒業式を迎えられることを祈念します。

入学式にあたり、平素の所懐と着任の抱負の一端を述べて式辞といたします。

昭和五十五年四月九日

有明工業高等専門学校長

吉村 虎 蔵

#### 校長略歴

- 出身地 福岡県福岡市箱崎
- 学歴 昭和16年12月九州帝国大学土木工学科卒業
- 職歴
- 20・12 内務省九州土木出張所
- 21・8 民間
- 22・9 福岡高等工業学校
- 25・6 熊本工業専門学校
- 26・3 熊本大学工学部
- 27・3 同校助教
- 29・10 工学博士学位授与
- 30・3 熊本大学工学部教授
- 42・7 同校評議員
- 48・4 九州大学工学部教授

陽春三月の好季、本日ここに、多数の来賓・父兄・教官・職員・在校生参列のもと、有明工業高等専門学校第十三回卒業式を挙行し、希望に燃ゆる一三名の、新卒業生を社会に送ることは、本校にとり最も慶ばしいところであり、卒業生諸君、諸君は、本校五年にわたる、長い学習を終え、諸君が本校入学の日、恐らく遠く遠かなものと思つたであらう、諸君のための卒業式に、今、臨んでいるのであり、諸君の感激はもとより、このこと、御父兄はじめ、御家族の皆様、御喜び、いかばかりと察します。

ここに、学校を代表して、心より

### 第13回卒業式 告辞

の祝意を表明するものであります。諸君は、本校において、知育・徳育・体育を修め、それぞれ、機械工学あるいは電気工学、工業化学あるいは建築学、理論と技術を得得し、明日よりは、新しい社会人として、さらに新鋭の技術者として、活躍いたしますが、現代社会の様相は、明日を予測出来ない激変を続け、技術の革新も著しく、産業の興に盛衰、また目まぐるしいものがあります。

卒業生諸君、諸君一人、一人の、今後の御活躍と、御多幸を祈り、告辞といたします。

昭和五十五年三月二十二日  
有明工業高等専門学校  
轟 一郎

### 新任教官の言葉

#### 回顧九年

校長 轟 一郎

#### 〇小西君のこと

昭和四十六年一月二十日、坂田文部大臣から校長辞令と激励の言葉を送られた。翌二十一日本校に着任いたしました。校長の椅子に暫くおかけただけで、数職員、学生に着任の挨拶もせず、そのまま留米に向いました。数日前の柔道事故で入院している小西裕司君を見舞うためです。あの日が昨日のことのように思われるのに、もう九年を少し越しました。回復がが次第に増加し、現在二大で、見届けることなく本校を去るの心残りとなりません。小西君の二棒を設けているもの、東京大学とは、これからもずっと念頭を離れないでしよう。

#### 〇曲り角に立つ高専

着任してみると「曲り角に立つ高専」という言葉が、高専の内から外からも、しばしば聞かれました。「曲り角」といわれた問題は、次の三点に要約されるようです。一つは解決されました。

一、過密、固定的なカリキュラム  
二、進学の途を閉ざされた袋小路  
三、志願者の減少と資質の低下

これら問題解決のため、国立にわたる検討の結果、昭和五十二年

#### 〇高専の特色

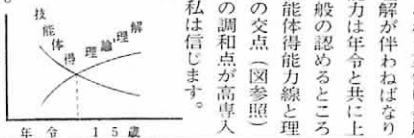
高専の特色としては、さまざまな点が挙げられていますが、九年の経験から、本質的な特色は次の三点と信じています。

一、十五歳からの実践的技術教育  
二、五年一貫の完成技術教育  
三、一般教官と専門教官の協力による技術教育

職業の決定はなるべく遅らせたがよいという説があります。しかし、この説は当たっていないと考えます。技能の修得は若程容易であることは一般の認めるところであり、しかし技術は単に技能に止る職業の決定はなるべく遅らせたがよいという説があります。

#### 〇総合実習のこと

昭和四十六年のはじめ、「有明高専の長期ビジョン」を策定しようとする専門委員会が発足し、学科の増設や教育方法の改善など、



さまざまな方面にわたる検討が精力的に行われました。その結果、本校では「総合実習」を進むことに決定しました。その主旨は次のようなものであります。

技術者の仕事は自分の専門分野の者だけで出来ることは皆無といつてよく、技術関係以外の者との協力も必要であり、少くも他の分野の技術者との協力は欠かせないことであり、またその協力の中に新しい視野も開かれるのであります。又、とかく理論に偏りやすい技術を実践によって体得することは、実践的技術者を自とする高専教育では欠かせないものと思えます。専門を越えての総合、実技と理論の総合を目的とするものが総合実習であり、これは多くの人がその必要と重要性を認めているにもかかわらず、実行に移れないのが現実であります。全く未踏の分野で運営が容易でないからであります。しかし困難に打撃つて実行すれば、必ず効果を挙げると信じます。現に見るべき効果を挙げている。全学協力のものと、今後の発展を期待して止ましません。

#### 〇機能分離

数年前にいわれた「高専の曲り角」も通過し、一路平坦ではないとしても、延長線上を進めばよいと考えていたのです。ところが最近、高専教育はこれよりかとい

#### 〇施設・環境

本校では創設の直後、高専図書館としてあるべき姿が、多数の教官により検討され、一つの理念に沿った基本設計が早くより出来ており、その設計に基づいて昭和四十六年度に図書館部門の建築が、昭和四十八年度に電算機部門の増築が行われ、現在の姿となりました。三階建の図書館とその機能は注目されることとなり、竣工時本校に訪れる方々の見学対象です。

#### 〇おわりに

本校今後の充実と発展は、一つにかかって本校教官の教育・研究に対する情熱と活力、さらにそれを支える技官・事務職員の積極的な協力にあることは言うまでもありません。

#### 川本敬之

春の不順な天候が続いていますが、それでも晴天の日が次第に多くなり、また日射もほとんど強くなつていくのが学内の木々の葉の反射でよくわかります。若葉の反射がよくわかります。私は四月一日付をもって、八年間お世話になった有明高専を去り、熊本大学教養部へ転任致しました。この間諸先生をはじめ、職員の方々、さらには一部の学生諸君に大変お世話になりました。この紙面を借りまして、厚くお礼を申し上げます。

#### 山口光臣

「十年一日の如し」とは正にその通りで、昭和四十四年に有明高専に就任して、あつと言う間に十年は過ぎてしまいました。その間に得たものは教育と専門の難かしさで、そのなかで、年を忘れて仕事に励むことが出来たのは、学生諸君の若さに触発されて、若々しい気持で在職期間を過ごすことが出来たことでした。これは何と言っても有難いことと感謝しています。浦島太郎のように教育の世界を出入ら途端に白髪の老人になるのではないかなと思つておられます。しかし、人間は命のある限り環境が変わっても頑張るべきだと思います。

#### 〇総合実習のこと

昭和四十六年のはじめ、「有明高専の長期ビジョン」を策定しようとする専門委員会が発足し、学科の増設や教育方法の改善など、

#### 川本敬之

あつて欲しいと思つております。高専でも新入生は無論、二年生以上も新しい学年に進んで張り切っていることでしょう。その気持をずっと忘れないで下さい。

退任の挨拶でも触れましたとおり、今や日本の経済が低成長時代に入り、石油ショック、公害問題などに端を発した工業再評価の時代とは言え、結局のところ、資源小国の日本は工業に頼らざるを得ません。海外では日本車の評判をとるまでもなく、例えば最近のヒット映画「地獄の黙示録」にソニーやスズキが登場することが日本の進むべき道をさし示していると言えましょう。このように、やがて日本の工業の中堅に位置する

轟先生をお送りして

松島寛治

轟校長先生が今春退官されました。高専校長の定年制がいかにいうようになっていくのかわかるところはありますが、先生には信ずる所にしたがわれたのであろうと思われま

先生は明治43年に宇佐のお生まれで、福高から九大に進まれ機械工学を修められた。それから当時の特許局にお勤めになり、このこと

でいろいろとお教を受けたもので、つい先日まで特許のことに

いろいろとお教を受けたもので、つい先日まで特許のことに

の俊英を育てられ、当大学の名誉教授であられる。

本校へは故岡田校長の急逝に代って着任され、大学での工学部長・附属研究機関の長などの経験を生かされて、かれこれ10年近く本校の運営に多大の業績のあったことには申すに及ばぬことです。

御在任中は余多の公職を併任され多忙をきわめていたようですが、これからは高専の視察委員として高専を見守って頂くことをもれ承わっております。

先生のすべてをうかがい知ることとはできませんが、近著「加藤家の人々」熊本市長崎書店発行を

紹介することによってこの稿を結びます。流配離散した清正加藤一族を三百年ぶりに発掘された執念ともいえる書だが単なる史書に非ず、先生の哲学そのものの中にみ出たものと感じられます。自費出版で入手難なのをごまことに惜しい。

新任の挨拶にかえて

須藤修一



十年一昔といふが十年以上も昔の話。四月のある日、当社会社の研究所にいた私の前に、数名の高専卒業生が他の学卒とともに現われた。研究所総務係は「今年、研究所配属の新入社員達です。貴部門の紹介をしてくれ」といふ。高専卒に接するのは始めてのこと

で、レベルが判らぬささか迷ったが、ええ面倒なりと学卒にレベルをあわせて説明したのは生来の不精から。かなり専門的な話をしたように思うが、帰りがけに部分放電の計測法について質問をしてきたあ

る高専卒の真剣な態度に、さわや

かな印象を持つにいたる。数年たち、わが研究所内の大方の評価は、高専卒は優秀で研究能力はもとより人的にもしつかりしており、なによりも一部の学卒と違って理論偏重・頭でっかちではなく、体を動かす手汚して実験する姿勢が貴重である、ということ定着する。私の見聞した範囲でも、その高専卒には自分達に対する評価がそのままできたばかりの母校や後輩につながるの危機感と、それに基づく使命感とがあつたように記憶する。

ところがいづつ頃からこの評価にかけりがてきた。いわく、研究能力が少し劣る、外国文献の読解力不足はまだしも、自己論文の文章表現力(もちろん日本語)がお寒い、加えて問題意識をもつて思考し行動し反省する姿勢に欠ける云々。(これは大学も含めた全国的な現象なのだが)

いろいろ原因はあろう。ただ企業が創業の精神を中心として活動し発展をつづけて行くように、学校にも建学の精神があり、それを中心に師弟あい集い、すべてが動いて行くはずである。思想なき集団は鳥合の衆であり歴史や伝統が蓄積される訳もなく、いざれば衰微して行く。この事を認識し母校や後輩のために頑張った初期の学生に比べ、昨今の学生生活は多少安易のように思う。そして技術とは何か、学問とは何かといった基本に於ける問題意識も低いように思うのだが、もし新参者の見当

ちがいなら平にご許しを乞う。ちがひながら今まで野原席やじつじつと私の立場が、今後はグラウンドで実際にプレーする立場に変わったことは明白であつて、早くレギュラーになれるよう精進せねばと心底願うこの頃である。

木庭元晴(こばもとほる)。昭和24年4月3日生。京都府出身。鹿兒島に四年、仙台に七年、大学に在籍。学校に在籍中が趣味といへば趣味。最も嬉しいのは人との出会い。大いに語り、自己主張し人に感化されず、自分にすなおに諦めず、適当に休む。これが私のモットー。

学歴九州大学電気工学科・前歴 機安川電機製作所・趣味 8ミリシネ・好きな言葉 Why not the Best(なぜベストをつくさないのか?)



校長先生へお別れの言葉

5A 松本 博

校長先生の御退官にあたり、学生を代表いたしまして、お礼とお別れの言葉を申し上げます。

校長先生は、本校に首肯されてから本日まで、本校発展のため、工学界発展のための御尽力は、多くの方々からよくかかっております。総合実習センター建設にありましては、なみなみならぬ御

研究、御努力をされたこともうかがっております。本校が、このように発展いたしましたのは、ひとえに校長先生のお力であると確信しております。

また、校長先生は工学の御研究のかたわら「加藤家の人々」の著作など、多方面の御活躍は我々凡人の真似の出来るところではございません。

これからは、校長先生を我々学生の鏡として、より一層の努力をしていきたいと思います。先生も本校の事、我々の事を思い出され、お暇が出来ましたならば、本校にもお立ち下さって、励ましていただきたいと思います。

最後に、校長先生の御健康とますますの御活躍をお祈りして、お別れの言葉といたします。

徳田 仁



一般科、英語、琉球大学、熊本大学大学院卒。生まれつきののんびり者で、

何事につけて物事を楽観的に見る方です。「今日の苦労は今日にて足れり。」を自己弁護として、仕事を引き延ばす悪い癖もあります。現在十年一仕事の考えで、気分新たにスタートラインに立つた気分です。

本校の印象。施設が立派で恵まれた環境の中で勉強できる学生たちを幸わせたいと思います。学生の心に積極的に融け込み、悩ま

相談にも応じられる先生になりたいたいと思います。頑張ります。趣味は山登り。

ロマン派詩人ワーズワースの詩句に「どんな卑しい花にも涙にまみ深い想い」という一句がありますが、自然に接すると、日常生活の中だとく見失いがちな感受性を取りもとせそうなきがします。

有明高専 図書館だより 33

五万冊の図書に光をあてよう

図書館長 下村龍太郎

思いもかけず図書館のまとめ役を兼務することになって、大いにとまどっておりますが、今まで外から眺めていた図書館を改めて見廻してみると、貸出し数の低迷など問題となる点もあり、非力ながら力を盡して問題点の解決に当たって行きたいと思っております。

さて、本校の図書館は図書室と呼ばれていた発足の時代から、高い利用率を誇っていましたが、その後次第に低下し、昭和54年度には多少の上向きになったとは言え、未だかなり低いところに留っています。

幸い、昨年度学生図書委員会が作られ、有明高専だより第42号の「利用者の声」をみては関心はかなり高く、積極的な意見ももっている人が多いためか、かえりまし

下表は、昭和五十四年度の学科別帯出図書の利用統計を示したものです。おおよその読書傾向がわかりになるかと思えます。なお昭和四十九年度以降の帯出冊数を参考のため表の下に記しています。昭和五十四年度は昨年度に比し約四十七％増加しました。諸君の一層の御利用をお待ちしています。

昭和54年度学科別帯出図書冊数調 (延入館者数 27,065人)

学科	学年	帯出冊数	内										
			000 総記	100 哲 学	200 歴 史	300 社会科学	400 自然科学	500 工 学	600 産 業	700 芸 術	800 語 学	900 文 学	
機械工学科	1	142	1	0	5	12	59	8	0	8	0	49	
	2	163	1	2	9	42	19	29	0	3	5	53	
	3	84	0	0	2	2	25	25	0	5	0	25	
	4	106	3	1	6	11	37	33	1	0	0	14	
	5	66	0	0	2	4	7	29	1	6	1	16	
計	561	5	3	24	71	147	124	2	22	6	157		
電気工学科	1	273	1	3	6	10	71	27	0	7	1	147	
	2	106	1	2	13	14	20	32	1	2	2	19	
	3	517	1	1	6	14	101	231	0	4	1	158	
	4	106	0	2	0	2	12	59	0	0	0	31	
	5	118	3	1	0	4	1	94	0	0	0	15	
計	1120	6	9	25	44	205	443	1	13	4	370		
工業化学科	1	75	1	0	1	2	53	4	0	3	0	11	
	2	256	11	8	15	10	98	15	0	1	11	87	
	3	239	0	1	2	15	125	41	4	0	3	48	
	4	124	1	1	3	1	64	42	0	1	0	11	
	5	176	4	0	1	9	69	42	1	1	0	49	
計	870	17	10	22	37	409	144	5	6	14	206		
建築学科	1	178	4	0	3	3	71	8	1	3	0	85	
	2	154	3	0	5	9	41	47	0	2	1	46	
	3	160	4	5	4	8	31	66	0	5	1	36	
	4	81	1	16	3	7	2	32	0	1	0	19	
	5	169	3	0	3	3	4	139	0	2	0	15	
計	742	15	21	18	30	149	292	1	13	2	201		
総計	3293	43	43	89	182	910	1003	9	54	26	934		

※昭和49年度 5,584冊, 昭和50年度 4,379冊, 昭和51年度 2,549冊, 昭和52年度 2,741冊, 昭和53年度 2,241冊

# 特集 学寮生活・心新たに

## 寮生活に思う

仁田原 元

規律をただ他律的に決められていたのを守っていくと考えるか、自ら進んで規律を定め、集団生活に生きていくか、という考え方は、規律という言葉だけで、猛烈な反発を感じるだろう、集団生活における規律とは、「他人に対する思い遣り」だと思ふ。この精神なくして集団生活を論ずる意味がない、寮における規則とは、縛るもので

## 原田克身

まず最初に寮の禁酒、禁煙等規則問題について考えてみた。これらのことが、教官の間ではいつになっても取沙汰されるが、指導を強化したとしても教官の見えない所では減る様子もなく、むしろ最近では増す傾向にあるのではなからうか。それは何故であろうか、寮生達には寮則、学則等は誰れがつくったのか、教師がつくったものだ。違反すれば罰せられる、できるだけ見つからないようにうまくやろうという意識だけしかないのではなからうか。では集団生活における禁酒、禁煙問題や朝夜の点呼、消灯の問題など多くの規則があるが、これらを全て無くすと

学生も消極的性格に変わってくるであろう。集団生活の中に生き、環境によって形成されつつあるからして、この及ぼす影響力は、はかり知れない程のものである。毎日勤勉な習慣のついた人と、落ちつかずまよきよとしたりした生活の習慣のついた人は、月日がたつにつれて、自信もちがなくなり、信用もちがなくなり、自信もちがなくなる。本当の意味での自信が持てる人と持てない人では、未来に対する信用も違ってくる。希望を持てる人と持てない人では、その人の幸不幸もまた異なるわけである。大地に根をはった人の生活と、浮き草のような人の生活と、どちらが本当に充実した気

## 学寮指導者研修会を終えて

を終えて

四月五、六日の二日間、天草青年の家において学生25名、教官8名、事務官4名の計37名で昭和55年度の学寮指導者研修会が行なわれた。従来からのテーマに加えて、「スポーツから相互間の親睦を深めよう」という事で行なわれ、今までの学寮生活の反省、討議のテーマは、「寮内の盗難」「朝点呼」「対面式」についてであったが、それぞれの立場から意見を交わし、納得し、まずまずの結果がまとまり、それに従って、既に14日から実施されている。

## 抱負 大山司朗

新しく寮を見ることになったのに際し、今までの寮について分析してみた。

- 一、勉強する雰囲気について
- 二、沈黙帯が完全に守られていない。
- 三、深夜になってからも、大きな声、物音を平気で出す。
- 四、寮の規律について
- 五、朝点呼、ラジオ体操について
- 六、盗難が多い
- 七、以上のような点が目についた。
- 八、これらをとどのようにして少しでも良い方向に持っていくかであるが、一については夜の巡回を実施し、



## 抱負 大山司朗

持になれるかは言うまでもない。寮生活を素質と努力で恵まれた環境を生かし、真面目に学ぶ事でますます自分の実力を増し、より強く、より深く成長する寮生もいるのに、存在の理由もわからず、うまいことばかり夢想して、意図して自らを誹り、他に劣る事及ぼす事になる学生が居る事は残念でかつ口惜しい思いがする。我々は寮の発展の為に骨身をおしまない、真に自分を正しく生かすものは、自己の完成の為に働くと同時に他人の自己完成に役立つ人である。自分を真に生かして、他人に真に生きる道を教えたものこそ、真に自分を生かしたとも言える。

悪い点を注意することによって寮生の自覚を高めようと思ふ。二については、現在あまり悪いという意識無しにやっているとある。休日前夜における点呼後の見回りをやり、悪いという意識を持たせる。三と六については、病室を設けて病人はそこで休ませ各種に残留生がないようにすれば、する休みも減るし盗難の機会も減ると思われ。四については、まず寮務主事室と寮役員とで四五人ずつ面接をやり、言葉使い、挨拶の必要性を説き、ある程度の自覚を持たせた後で対面式をやる。また挨拶の仕方、場所、時間、状況に合った挨拶ができるように指導する。同時に上級生も一年生から軽く見られないよう生活態度をきちんとやるよう指導する。

## 寮役員一言

寮長 梅木春男

新規主事室との寮の運営になって、か月前が経とうとしているが、無法さの目立つた今までから一転して厳しさが増した為か、一部からは今に不平不満の声が絶えない。しかし、以前とは比較できない程規則的な生活を送っているように見受けられる。朝点呼の徹底により夜は自然に早く床につくようになり、食事も八割以上が取るようになって健康管理に役立っているように思ふ。

主事室、事務所、学生間のコミュニケーションというものは、互いに意見を交わし寮を向上させる事を目的としているので、一方通行というのはいくらも無い事だと思ふ。それでお互いに無理のない言い分を聞き合つて行きたいと思つている。寮生活が良くなれば、それに合った施設等を改善してもらえらるるよう願うのが今の自分の仕事だと思つている。

副寮長 小川敬二

私が副寮長になって以来半年足らずが過ぎた。最初に考えていた時とはかなり違つてきた。副寮長になった当初はいきなり自治会に入り戸惑いもしたが現在は戸惑いも間違いも許されぬ。今思うことは、自分自身を強く持ち寮の中の二百人の心を一つにするように努力を怠るべきではない。それが指導者としての自覚であると思ふ。自治会を一つに又寮を一つにこれは僕の信念である。

総務 小川伸司

最近、私が思うには寮生の自覚がうすれてきたことである。我々が一年生のころは寮生としての誇りがあつたものだ。今の下級生にはそんな気持があるのだろうか。

寮での生活を楽しくするのも、苦しめるのも自分の気持一つである。楽しい事はやりを頭で追うのをやめ、多少つらい事でも自覚をもってやる意味は深いと思ふ。がんばりましょう。

整備局長 中上俊哉

今、寮には草木が植えられ、外見はきれいな寮であるが、実際私たちが寮生の生活する棟内は、余りきれいなとはいえないように思ふ。寮生一人一人の自覚をもって、有明の寮はとてきれいだと言われ

体育局長 藤原祐介

有明寮自治会での体育局長である私の役割は、寮における体育関係行事の計画、運営である。さあ、五月十一日に地区別球技大会がある。寮生みんなのために、楽しい行事にしたい。その次は漫

松岡賢次

今年度の寮運営に当り、あまりに高望しているように思えてくる。しかしに理想を持ち、それに進んで行く事は大切かもしれない、いやとても大切なことだろう。しかしそこで目標に向つてのスピードオーバーでは、目標には確かにい

松岡賢次

今年度の寮運営に当り、あまりに高望しているように思えてくる。しかしに理想を持ち、それに進んで行く事は大切かもしれない、いやとても大切なことだろう。しかしそこで目標に向つてのスピードオーバーでは、目標には確かにい

松岡賢次

今年度の寮運営に当り、あまりに高望しているように思えてくる。しかしに理想を持ち、それに進んで行く事は大切かもしれない、いやとても大切なことだろう。しかしそこで目標に向つてのスピードオーバーでは、目標には確かにい

松岡賢次

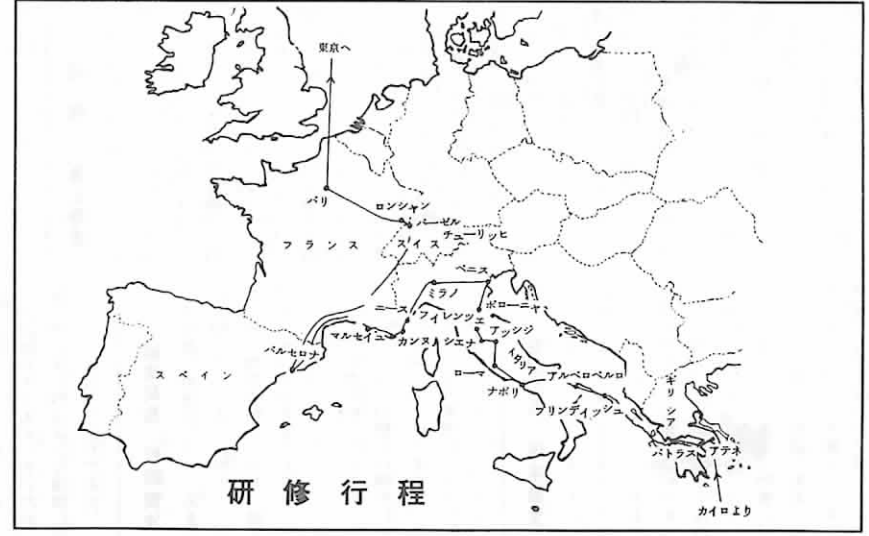
今年度の寮運営に当り、あまりに高望しているように思えてくる。しかしに理想を持ち、それに進んで行く事は大切かもしれない、いやとても大切なことだろう。しかしそこで目標に向つてのスピードオーバーでは、目標には確かにい

### ヨーロッパの都市と建築を巡って

新谷 肇  
北岡 敏郎

#### 研修日程

- ① (カイロ) カイロ博物館・モハメッドアリモスク・ギザのピラミッドとスフィンクス・パピルス研究所・サツカーラの階段状ピラミッド・メンフィス・カイロ市内
- ② (カイロ) アテネ) カイロ空港・アテネ市内・アメリカ大使館(プロピウス)・フィロパポスの丘・アテネの諸神殿・博物館・近代オリンピックススタジアム
- ③ (アテネ) パトラス) アゴラ・風塔・国立考古学博物館・ダフニ修道院・コリント運河・コリントス遺跡
- ④ (アテネ) シュエナ) オーストリア) バリ) アルペロベルロ
- ⑤ (アルペロベルロ) ポンベイ) ナポリ) ローマ) トウルニエ) の円形住宅集落・ポンベイの遺跡
- ⑥ (ローマ) サンタアンデリア) ア教会(ベルニーニ)・サンカルリノ教会(ボロミニ)・クイリナーレ広場・大統領官邸(ドメニコ・フォンタナ)・ヴェネチア広場(サツクス)・ドゥオーモ美術館・ウフィツィー美術館・サンタマリアノヴェラ(レオンバチスターアルベルティ)・メデイチ家チャペル(ミケランジェロ)・サンロレンツォ(ブルネレスキ)・サンタクロチエ教会
- ⑦ (フィレンツェ) ヴェネツィア) ヴェニス) ヴェネツィア) ミラノ) マルコ広場・ガラス工場・アレナ広場・サンゼローマツジョーレ教会・パラッツオ通り・ガレリア・ミラノ大聖堂・ミラノ中央駅
- ⑧ (ニース) カンヌ) コートダジュール) マルセイユ) ノール) ヴェネツィア) ユニテラビタシオン(コルビュジエ)
- ⑨ (マルセイユ) バルセロナ) サグラダファミリア教会(ガウディ)・グエル公園(同)・ピカソ美術館
- ⑩ (バルセロナ) チューリッヒ) パラツシオゲル(ガウディ、以下同)・街灯・ラシウダテラ公園モニュメント・カサカルヴェット・カサパトロ・カサミラ・コルビュジエセンター(コルビュジエ)
- ⑪ (マルセイユ) バルセロナ) サグラダファミリア教会(ガウディ)・グエル公園(同)・ピカソ美術館
- ⑫ (バルセロナ) チューリッヒ) パラツシオゲル(ガウディ、以下同)・街灯・ラシウダテラ公園モニュメント・カサカルヴェット・カサパトロ・カサミラ・コルビュジエセンター(コルビュジエ)
- ⑬ (チューリッヒ) バーゼル) ロンシャン) ゲーテアナム(ルドルフシュタイナー)・ノートルダムデュオーグ(コルビュジエ)
- ⑭ (パリ) デフランス地区) 大聖堂のスイス館・ブルジョア館(コルビュジエ)・ノートルダム・ルーブル美術館・エトワールの凱旋門・エッフェル塔・フランクリン街のアパート(オーギュストペレー)・ボンビドーセンター
- ⑮ (パリ) 成田) シヤルルドグール空港



研修行程

学生時代から長い間、夢みていたヨーロッパの都市と建築を巡る旅がやっと実現した。建築の学問の中に建築史或いは意匠、設計論等の領域があり、学生時代には必須の科目となっていた。その授業で、ヨーロッパの都市や建築の古代から現代に至る流れを写真やスライドを通じて学んだ。それを語る老教授は教科書の図集と共に自分で撮影された写真でさらに詳しく説明された。その日以来、いずれは自分達もこの眼でそれらの町や建築をみてみたいというのが念願であった。建築というのは、絵画や彫刻等と同様に写真やスライドや文字による説明のみでは理解できない部分があり、実物に接することが不可欠なところがある。もつと言えは絵画や彫刻等の鑑賞以上に、建築は別の理由で直接眼でみて体験することが求められる。それは、建築を体験することの中に、人間の生活と空間との対応、空間のボリューム感、スケール感或いはプロポーション感等が含まれており、これらはどのように写真やスライドや文字の説明で詳しく語られてもピンとこないところがあり、やはり自分の眼でみる必要がある。また、空間を体験する場合、見る者の進行する方向とその時間的経過が重要な意味をもつ場合もある。さらに建築を評価する場合、外観



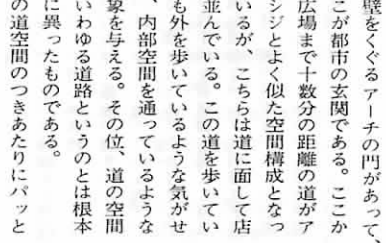
アッシジ町並み

も大切であるが、内部空間の評価が欠かせないが、この内部空間を理解するには、やはりこの眼や耳を始め全ての感覚器官を通じて体験することが最も確かである。そして建物の外観も、単に個体としてばかりでなく、まわりの建物や自然との対応の中で成り立つ外部空間として体験することが大切な時もある。等々の理由である。今回の旅でまわったところは、前記の通りであるが、建築専門のツアーであったため、古代エジプト、ギリシャから現代建築まで、20日間という短い期間ではあったが、広範囲にフルに見学することができた。地理的には図のように、地中海に面した国や都市が主で、イギリス、オランダ、ドイツを始め東欧、北欧の国々はまわれなかった。旅の目玉は、エジプトのカイロ、ギリシャが含まれたこと、イタリアを一週間かけてじっくり見られること(特に中世の都市、ルネ

ッサンス、バロック建築を中心に)さらに、ル・コルビュジェの建築作品をみることにあったが、ハイライトはやはり一週間の費やしたイタリアであった。旅のコーディネーターの鈴木美治氏は、ローマ在住の建築家であったこともあって、内容的にもイタリアの旅が最も充実したものであった。イタリアはヨーロッパの中で歴史の建築の宝庫と言って差し支えあるまい。ローマ、ポンベイ等の古代ローマ時代の遺跡や中世の都市や広場、教会、ルネッサンス、バロックから現代建築まで歴史的に意義深い建築が無数に存在していると言つてよい。ここでは、最も感銘の深かったイタリアの中世の都市と建築について、ル・コルビュジェを中心とする現代建築と対比させながら述べてみたい。今度の旅で強烈な感銘を受けたことが三つあった。一つは木造文化の中で育った我々には石造文化を真に経験することができないが、イタリアの石造文化の重量感に圧倒されたこと。第二に都市はもろろん建築としてある特定の建築家が都市計画をしたのは全く異なり、住民の手で職人の手仕事で長い年月をかけて徐々につくられてきた町並みである。家々のファサードや壁面のデザインは統一の中にさまざまな工夫や

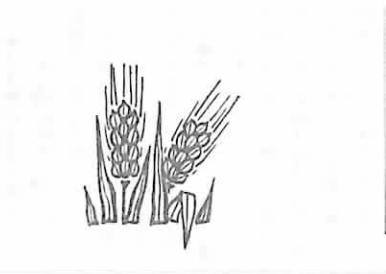
で建築を見る習慣がある我々にとって、無名の大多数の住民や職人の手仕事によって築かれた建築群の与えた迫力は言葉に尽くせない程のものであった。イタリアは、石灰質の土壌で樹木特に建築用の大きな樹木が育たないかわりに大理石が豊富で必然的に石造或いは煉瓦造で中世の都市はつくられている。アッシジ、シエナ、サンジミニアーノ、或いは中世よりやや新しくなるがアルペロベルロの都市をみてこれまでのどの建築体験でも味わえなかった重量感のある豊かな何かの中にジーンとくるような強烈な感銘を受けた。城壁に囲まれた中世都市が今でも生きつづけている。煉瓦を積んできた宗教都市、アッシジの町並みの構成原理は現在の都市計画のように道路をついて、街区を決めてその中に建築を埋めていくやり方とは根本的に異なる建物(住宅)がまますつくりなというやり方である。そこで、道は広くなったり、狭くなったり、曲りくねったり、行きどまりになったりしているわけである。ある特定の建築家が都市計画をしたのは全く異なり、住民の手で職人の手仕事で長い年月をかけて徐々につくられてきた町並みである。家々のファサードや壁面のデザインは統一の中にさまざまな工夫や

#### シエナカンポ広場



この町のコアにイタリアゴシックの大聖堂がある。教会内部のフレスコの宗教画でうめられた壁面装飾のみことさや、地下聖堂の思わぬ手を合わせて祈りたくなるような神秘的空間の印象も忘れられない。シエナのカンポ広場は半円形の内側に向つてやや傾斜して排水できるように考慮され、床面は舗装され放射状に大理石の模様が入っている。人々はその広場で立話をしたり、くつろいだりしている。日本にはないこのような広場をイタリアで沢山みできた。アッシジには、もう一つサジミニアーノには、もう一つ暗くなつて到着したが遠くから望む十数本の塔がそびえる丘の上の町の景観は偉容である。多いときには70本近くの塔がそびえていた。この町の重さや無数の

人々の営々とした手仕事の結晶の迫力には、たとえ、世界の巨匠でもかなわないことを物語っている。現代建築がかかえる問題は、まさにこの歴史の重さや無数の人々の力の結晶をいかに組み入れるにかかっていると思われる。巨匠の時代が終り、万能のアーキテクトが活躍できる時代が去った今、建築とは何か改めて問いつづけられねばならないことを痛感させられた旅であった。



アルペロベルロ円形の家

教室通信

機械工学科

慶上原 弘先生 3月16日長女誕生。名前は弘恵さん。おめでとうございます。
池本忠義先生が教授に、山下 巖先生と大山司朗先生が助教にそれぞれ昇格されました。おめでとうございます。
梶山 景君43歳 就職 オリンパス工業、八王子事業場。193 八王子市野町1097番 丘団地3-12-407 TEL.0426 (66) 1459

工業化学科

山田洋二君50化 □日本ウォーターズリミテッド福岡営業所。812 福岡市博多区博多駅東2-17-5 モリメンビル TEL.092-474-0566 (代)
木下 実君51化 □九州電力(株)環境部環境技術課。810 福岡市中央区渡辺通2丁目1-82 TEL.092-761-3031
福田正広君53化 □スリーエム技術コンサルタント環境部。816 福岡市博多区板付4丁目7-35 TEL.092-582-3331

電気工学科

本号にて紹介の如く4月1日、退官された川野教授の後任として安川電機より須藤修一教授が着任されました。御趣味は、8ミリ、シネ、ジョキング、歌謡曲等広範囲であります。
永守知見先生 4月29日 大牟田浄真クラブにて、武下定四郎先生御夫妻の御慶びにより挙式。新婦は本校庶務係 藤(しとみ)真喜子さん。おめでとうございます。
新居 864 荒尾市下井手768 高専宿舎
仁和君君45歳 2月10日 熊本市内で挙式。新婦は美代子さん。おめでとうございます。
熊本市東区大津町大林1528-139 吹田川内地区
本村栄章君52歳 今春、宮崎医科大学合格。おめでとうございます。 住所 889-16 宮崎県宮崎郡清武町大字今泉 849の6 第2メゾン

井手高浩君52歳 2月、日立電子サービスK.K.退社。下記の住所で電気工事業自営。
住所 868 大古市上藤原町1407の4
井手秀政君52歳 小林電報電話局より、電々公社熊本電気通信学園線路技術部へ転勤。住所 860
熊本市津浦町31番地1号 熊本電気通信学園 相模寮 南107号室

西川和彦君53歳 新任所 下記の通り
236 神奈川県横浜市長沢区朝比奈町146番地
近藤 洋君55歳 新任所 227 横浜市緑区窪田北2-2-5 富士通第一市ヶ尾寮 C1 16号
田島卓幸君55歳 新任所 806 八幡西区黒崎小鷲田町11の1 安川電機 同和寮内
堤 豊君55歳 新任所 440 豊橋市天伯町雲雀ヶ丘1の1 豊橋技術科学大学学生宿舎 B 203号

山田洋二君50化 □日本ウォーターズリミテッド福岡営業所。812 福岡市博多区博多駅東2-17-5 モリメンビル TEL.092-474-0566 (代)
木下 実君51化 □九州電力(株)環境部環境技術課。810 福岡市中央区渡辺通2丁目1-82 TEL.092-761-3031
福田正広君53化 □スリーエム技術コンサルタント環境部。816 福岡市博多区板付4丁目7-35 TEL.092-582-3331

浦田洋行君55化 440 豊橋市天伯町雲雀ヶ丘1-1 豊橋技術科学大学学生宿舎A棟403号
坂中卓子さん55化 864 荒尾市本井手野中875の2
塚脇 昌君55化 275 君志野市大久保3丁目1-21 菊水宅203号
尾花俊也君55化 297 彦根市東郷2142 三井製菓工業(株) 宮の台寮 TEL.04752-4-4265
浜崎一彦君55化 669-11 神戸市北区道場町生野847の7 富士チタン(株) 生野寮
松原剛武君55化 350-13 狭山市新狭山2-21-6 八千代工業(株) 狭山寮
井上 敏君、下川義之君55化 729-64 広島県高田郡甲田町下甲立815 湧永寮
松崎剛正君55化 483 愛知県江南市大字吉野野吉3 松永種苗(株) 寮

井上妙子(旧姓塚本)さん54化 □4月13日結婚
新郎井上敏彦氏 813 福岡市東区大字下原502-15
田中明彦君43化 □5月24日結婚 新婦房枝さん(旧姓吉田)
村上政明君54化 □転職 日立造船電算エンジニアリング(株) 有明工場
才所裕幸君55化 □473 豊田市吉吉町平和74の2 第3誠和寮 TEL.0565-52-1511内線214
小宮秀一君55化 □424 静岡県清水市三保858 三井プロケミカル三保寮 5月6日来校。
吉田竜治君53化 5月6日来校

建築学科

山口光臣先生が4月1日付で退官されました。先生は

昭和44年以来10年間学科創設に尽力され、1期生から12期生までの全卒業生、在校生並びに教職員がお世話になりました。ありがとうございます。先生の御健康と御多幸をお祈りします。高、4月より佐賀工業専門学校で教鞭をとられています。
佐賀市高木瀬町大字高木1430 TEL.0952-31-4628 850 長崎市西山町2丁目185番45号 TEL.0958-23-5471

退官記念事業については、別途、計画、連絡します。
野野 貴先生が主任になられました。
吉岡義雄先生が2月に転居されました。836 大牟田市原山町2-1 TEL.55-0733
新谷 一 北岡敬郎先生が2月26日-3月15日の19日間ヨーロッパ研修に行かれました。
以下の方が結婚されました。おめでとうございます。
甲斐富士雄君(51歳) 新婦すみこさん。
藤田和富君(51歳) 新婦聖世さん。
高木秀樹君(50歳) 新婦穂さん。
坂本康彦君(51歳) 新婦緑さん。
北村彰啓君(51歳) 新婦節子さん。
村上剛宏君(51歳) 新婦美美子さん。

池田浩一君(48歳) ビルマでの工事を終え帰国。
杉本清昭君(51歳) 昭和53年11月に黒川建設を退社し、松島建設に入社。
川添忠司君・史君(52歳) 847 唐津市和多田天満町1丁目
中山正博君(54歳) 8 COSANTI FOUNDATION (U. S. A.) への研修に出席
本木孝男君(55歳) 142 品川区豊町1-11-16 3井不動産戸越寮 TEL.03-785-1365
坂口 邦男君(55歳) 千葉県市川市田尻2-2-10 太平工業(株) 鬼高寮
高沢清隆君(55歳) 神戸市東灘区深江北町2-10-12
船津智彦君(55歳) 福岡市中央区薬院3丁目4番9号 松尾建設K.K.福岡支店
竹下文幸君(55歳) 東大阪市ひらひら研修所
西村博文君(55歳) 250-04 神奈川県足柄下郡箱根町大平台312 佐藤工業(株) 箱根作業所 TEL.0460-2-4316

大田中照男(55歳) 荒尾郵便局現場
松本正満君(55歳) 東建設福岡市南区大橋2丁目21番21号東ビル TEL.092-521-6361
佐賀寛一・吉村広君(55歳) 福岡県粕屋郡篠栗町津波黒字森本197-2 大蔵住宅産業寮 TEL.09294-7-5792
福島一義君(55歳) 816 大野城市栄町3丁目18-3 TEL.092-781-2831 (営業寮 092-581-9491)
中野久幸君(55歳) 堺市松屋大和川通3-139-1 岡崎工業(株) 堺洗心寮
長田靖久君(55歳) 岡山県高梁市松原町神原2390高梁作業所
学校来訪者(敬称略) 池松浩一(48歳)、森徳義(49歳)、板井岳夫、森田一郎(51歳)、野田保男、中島正昭(52歳)、福岡正夫(53歳)、松本善二(54歳)、本木孝男、福島一義(55歳)

5C 川桐 純

希望に大きく胸をふくらませ、この伝統ある有明高専に編入学し一年、本当に月日が立つのは早いものである。編入学に当っては年令的にひと回り以上も異なる級友達の中で果してこれら級友に迷惑をかけることなく諸先生方の講義を聴講し勉強できるかどうか疑問であり又大きな不安であった。しかしこれらの私の疑問や不安も

周囲の級友をはじめ諸先生方の暖かい思いやりによりどうにかこの一年間を無事に過ごすこともうかがい出来たようです。今日編入学当時から現在までを振り返ってみると、春の新入学生歓迎の甘山遠足に始まり、北陸、京都への修学旅行、球技大会、秋の文化祭等本場に思い出し出ばかりから次々へと浮んでいきます。なお私もこれら行事に参加させていだき精神的に若返ることができ大変感謝している次第です。た

だ精神とは対照的に体がどうも自分の意志のまま動かし級友達の若さ溢れる行動を見るにつけ若さき素直さを痛感し、又羨ましくさえ思っている私であります。え思っている私であります。あ一年やこの級友達のエネルギーシな若さを少しも吸収し精神的・肉体的にさらに若返りたいものである。編入学してから私が非常に困ったことはテストの時である。日頃、真面目に講義を聞き勉強している学生にとってはどういうことではないのであるが、私にと

この一年をふり返って
早いもので過ぎ去ってしまえば一年という月日は短く感じる。工業高校を卒業以来16年学校生活とは全く縁がなかったが、会社の制度により本校に編入学は出来たものの期待と不安が交錯していたのは中学校から直接入学する時の感情とは又一味違っていたからである。通学の便と化学系の学科がある学校という理由で本校を選んだが、清水の舞台から飛び降りる気持ちという表現が適切であったようにある。

長い空白と高専と高専のカリキュラムの違い、特にドイツ語、数学等の教科そして会社生活と学校生活の違い等、その様な気苦労が別れたので慣れるまではと妻とは別居したものである。しかし時間とはいいもので、毎日の学校生活をおくっているうちに次第に慣れ7月も過ぎ夏休みも近づくと頃には精神的にも落ち着くようになった。この学校生活に慣れる一つの大きな因子として修学旅行があげられる。当初旅行の話があった時旅行コースの殆どは行ってないし特別の興味はなかったで行かないつもりでいたが、担任の先生の勧めもあり結果的に

異質である事を痛感した。長く実務をやっていた仕事に関することで試験を受けたのは各種の国家試験等であり、実務に關する事は経験と調査する方法を知っていた。試験というものはそれはいいから試験といものはそうはいかない。たとえ授業中よく理解していたとしてもいざ試験となれば半分も書けない事が何回もあったものである。特に応数や数式を使う専門科目は悩ませたものだ。試験というものは理解力だけでなく記憶力も大きく作用する事を感じたもので

職場から学園へ

的には行つてよかったと思う。泊6日の旅行により毎日の緊張から解放されそしてクラスの雰囲気、慣れた行つたのが最大の収穫であった。一年過ぎ去った今静かに考える。時々様な事を感じる。(1)15、16年昔に比べて学生気質というものは大きく変化した様である。

新入生歓迎遠足を終えて去る4月28日晴天の下、新入生歓迎遠足が行なわれた。今年例年になく、学校解散という事で、学生の不満も多かった事である。目的が小岳山という事で、距離的でも、体育行事にふさわしいものであった。計画では、山頂到着が12時30分であったが、先頭は11時30分に到着した。そのために、歩調が速く、日頃スポーツで身体をきたえていない学生にとっては、心臓が止まる思いであったろうと思う。

5C 川桐 純

反省としては、目的地、時間的計画については、問題はなかったと思う。ただ、役員の仕事の徹底不足で、途中気分が悪くなった者の人に協力してもらった事を反省している。又、来年からは、目的の地は、小岳山あるいは三池山とし、遠足はリクリエーションの意味だけで行なうものではない事をわかっただけ。最後に、遠足を発案した、主事室の先生をはじめ諸先生方、職員の皆様に深く感謝いたします。
学生会長 5A 松本 博

クラブ学生の表彰

左記に示す者は、入学以来卒業までクラブ活動を続け、よく頑張ったので選考委員会より、卒業式のもと表彰された。社会人としても頑張っていて欲しい。

- 陸上競技 M 渡瀬啓文、E 清水泉、C 池上昭、竹元希敬、濱利一
硬式野球 M 田中俊也、E 宮崎靖彦、C 浜崎一彦、バスケケット
ボレー M 西山誠、C 下川義之、A 樋口英郎、バレーボール M
上妻公二、三瀬清文、E 渡辺清樹
A 田中良親、西村博文、卓球 M
辻村幸二、E 藤原雄徳、和田英雄、軟式野球 M 宮津浩二、今
岡義晴、E 堤丈一、A 田中節子、
硬式野球 E 高場英信、A 木本幸

人事異動

- 兼任
教務主任 松島 寛治
学生主任 品川 尚司
教務主任 仁田原 元
学生主任 向井 昭三
教務主任 近藤誠四郎
学生主任 瀬戸 洋
教務主任 宮川 英明
学生主任 原田 克身
教務主任 大山 司朗
学生主任 玉野 實
教務主任 穴山 健
学生主任 下村龍太郎

学校行事(昭和55年度)

Table with 3 columns: Date, Event Name, Location/Remarks. Includes events like 始業式, 入学式, 祭球技大会, etc.

九州地区体育大会(夏)の案内

第17回(昭和55年度)大会の実施要項が四月二十六日熊本で開かれた運営委員会で決定された。今年からA・B地区が一本化され、九高専が種目別に1ヶ所に集まり競技する。

編集後記

今年度最初の本紙をお手許に届けることが出来、安堵すると同時に、不慣れた担当者に積極的に協力された執筆者の皆様へ深く感謝の意を捧げる。本号の不手際の際一切の責任は委員長私にある。学内外の皆様から広く玉稿を頂き、御指導を得ながら、次号以下に微力を盡したい。

風胴製作開始より昭和55年3月末まで

風胴製作開始より昭和55年3月末まで九ヶ年を経過し3月末をもって風胴本体の据付、モーターの芯出し作業も完了し、略風胴としての体裁を整えた。本報告では昭和54年10月より55年3月までの経過について述べる。

総合実習レポート(12)



写真1 実習センター玄関上の標示

これらと並行して風胴完成後に使用するガスクロマトグラフ、風向風速計、変位測定装置、3分力天秤等の諸計器の整備も著々と進められその活用が備えられた。これらの風胴関係のプロゼクトとは別に石崎教官が中心となって太陽エネルギーの研究・開発に関する第2次プロゼクトの調査・実験が進められていることを報告しておく。

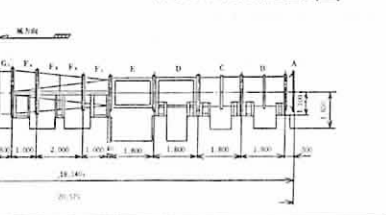
表-1 総合実習経過表(1)

Table showing cumulative hours for various practical exercises (実習科目) across weeks 10 to 12. Includes columns for 機械, 電気, 工作, 建築, 小計, 合計.

総合実習経過表で使用した記号

- B: ブロック積み
C: 溶断又はコンクリート打
D: 現寸引き又は設計図作成
E: 整備、ひずりとり、検討、治具製作又は土工事
F: 割りり石工事
M: 機械加工又は組立
P: 塗装又は型枠工事
S: 鉄筋加工・組立、取付け又は資料収集・整理
T: 検査又は試験
W: 溶接又は木工事
(※) 実習完了

図-1 環境風胴組立図



電動機仕様
うず電流継手式可変速度電動機
出力 25Kw
電圧 220v 3φ
周波数 60Hz
回転数 1,650-165rpm
風胴仕様
口径 1,600mm
風量 1,950m³/min
送風機全圧 50mmAg
回転数 750-75rpm
風速測定部風速 15-15m/s

特に製図力が欠けているように見受けられる。この点座学指導面でもカバーしたいと反省している。

(2) 安全教育 「安全は何よりも優先する」ことを心に銘じ、又学生にも認識させる必要がある。今後とも作業の進捗より「安全第一」をモットーに一層留意していききたい。

(3) 協調性 本校における総合実習の場も学科・学年性格を異にする学生が一つの作業をする職場と置き換えて見做してもよいだろう。そこで要求されるのは協調の精神であり、学生間のギャップをコントロールしてゆくことは大切だと思う。

当期間に2つの行事があったのでこれについて附記する。昨今エネルギー問題が浮上しており、本校においても第2次プロゼクトにエネルギーをとりあげている時期でもあり、これに関連する特別講演会をつぎのように計画した。

- 1. 講演題目 ソーラハウスの現状と工学的諸問題
- 1. 講師 大分大学工学部 エネルギー工学科 工学博士 石橋英一氏
- 1. 日時会場 昭和55年2月20日 15時30分～17時 図書館 視聴覚室
- 1. 受講学生 正規授業のない各学科第3・4・5学年生

多数の教官も参加され、高専生向きに内容を分り易く明快に説明され有意義な講演会であった。

また3月10日には風洞本体の製作が一応終了したので、11時より教職員、学生一同総合工場で稼働式をおこなった。

まず校長の風洞完成の意義づけの挨拶に始まり、ついで玉野教官の経過報告、校長のスイッチ入れによる送風機始動、本本教官の乾杯の首領とめでたきを終りし、この間各新聞社よりの撮影がなされ、新聞報道、テレビ放画等により本校の面目を飾った。

思うに学生のひたむきな実践意欲により風洞としての骨組が、応完成し、今後はその機能を發揮するための肉付けを残すのみとなった。

これもひとえに校長をはじめ各教職員の御理解と御援助の賜であることは当然ながら、この新しいプロゼクトを何とか自分等の手で完成し、実験の成果をその目で確かめたいという学生の熱意があればこそだと考えている。今後とも学生共に一丸となって実習を継続してゆくつもりである。

(機械工学科 清森)



写真3 特別講演会状況

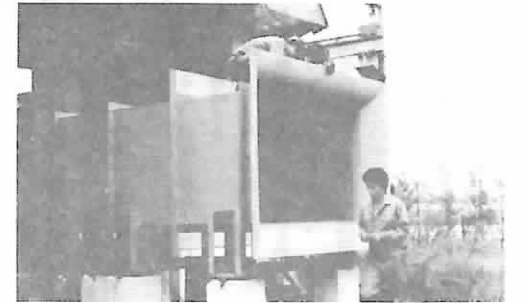


写真2 取付完了の吸込ベルマウス



写真5 稼働式風景



写真4 稼働式の校長挨拶

表-2 昭和55年度総合実習・前期時間割

学科	機械工学科(M)	電気工学科(E)	工業化学科(C)	建築学科(A)
月			3C(5~7) 応用物理(吉岡、田中)	
火	5M(6~7) 卒業研究(清森、中村、多田限)	5E(5~7) 卒業研究(吉武)	※5C(5~7) 卒業研究(吉武)	5A(6~7) 実習(吉岡、近藤)
水	5M(5~7) 工学実験(清森、中村、多田限)	5E(5~7) 工学実験(清森、中村、多田限)		5A(5~7)卒業研究(吉岡、近藤) 3A(6~8)応用物理(吉岡)
木	4M(5~7)工学実験(清森、中村、多田限) 3M(5~7)応用物理(清森、中村、多田限)	E(5~7) 工学実験(武下)	※4C(5~7)工学実験(吉武) 3C(5~7)工学実験(吉武)	
金	3M(5~7) 実習(木本、中村、多田限)		※5C(5~7) 卒業研究(吉武)	
土	5M(2~4) 工学実験(清森、中村、多田限)	3E(2~4) 応物(吉岡、永守、村久樹)		4A(1~4) 実習(吉岡)

上段の文字は学年・学科(時限)、下段は学科目(指導教官・技官)を示す。なほ※印は廃水処理実習を示し、工業化学棟で実施する。